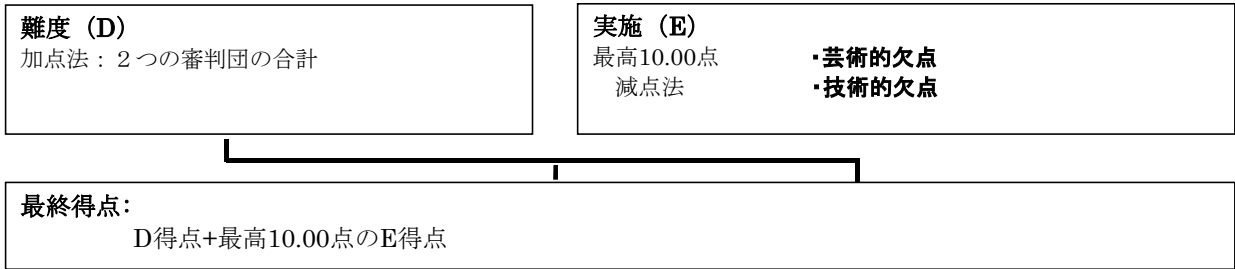


*2017～2020年版(公財)日本体操協会競技規則・採点規則・シニアルールを適用する。

総則

点数配分と計算



個人演技【得点の配点】

難度(D) (加点)	実施 (E) 10点満点 (減点)	
・身体難度(BD) 最低3個 最も高いものから9個 各身体グループから最低1個の難度 (ジャンプハ バランス T ローテーション o) 基礎手具技術グループまたは基礎でない手具技術グループを伴って ・ダンスステップコンビネーション(S) 最低1つ 基礎手具技術グループまたは基礎でない手具技術グループを伴って ・回転と投げを伴ったダイナミック要素(R) 最低1個 最高5個 ・手具難度(AD) 最低1個	芸術的欠点 芸術的構成 ・構成の統一性 アイデアのガイド:特徴 つなぎ ・音楽と動き リズム ダイナミックな変化 ・身体表現 ・多様性	技術的欠点 ・身体の動き ・手具の技術

団体演技【得点の配点】

難度(D) (加点)	実施 (E) 10点満点 (減点)	
・交換を伴う難度と伴わない難度 最高9個(実施順に) 交換を伴わない身体難度(BD) 最低4個 交換を伴う交換難度(ED) 最低4個 各身体グループから最低1個の難度 (ジャンプハ バランス T ローテーション o) 基礎手具技術グループまたは基礎でない手具技術グループを伴って ・ダンスステップコンビネーション(S) 最低1つ 基礎手具技術グループまたは基礎でない手具技術グループを伴って ・回転と投げを伴ったダイナミック要素(R) 最高1個 ・連係(C) 最低4個 身体の回転を伴わない連係/身体の回転を伴う連係	芸術的欠点 芸術的構成 ・手具/選手の接触 ・構成の統一性 アイデアのガイド:特徴 フォーメーション間の移行 ・音楽と動き リズム ・ダイナミックな変化 ・身体表現 ・多様性	技術的欠点 ・身体の動き ・手具の技術

高体連ルールについて(2019年2月決定)

1. 許容について

①伴奏音楽について

団体や個人に言葉を使った伴奏音楽を用いて良い。個人は2種目中2種目に利用できる。国体の個人競技では1チーム最大4名に言葉を使った伴奏音楽を用いても良い。

②団体のリボンの長さは5m50cm以上とする。

2. 服装について

- ①レオタードについては日本体操協会採点規則を適用する。
- ②練習着については、素肌を出さないことを条件に、セパレートタイプの着用を認める。
(キャミソールタイプの細い肩ひもは認めない。)
- ③化粧・髪飾り、ピン等の光るものの使用禁止。(リボンを含む)
- ④マークはレオタードの柄と区別がつくように、第Ⅰコール、第Ⅱコールで確認する。
- ⑤マークは学校名又は校章とする。(校名は略称でも可能。)但し、頭文字のみは認めない。
(校章が頭文字のみの場合は確認できるものを監督会議までに提出する。)
- ⑥マークを付ける位置については、ウエストラインより上とする。
マークの大きさ:次のいずれかの形状を包含する(上回る)大きさであることとする。
凹凸のある形状のマークでは、凸出部を直線で結んだ形状をその大きさとする。
(1)4.5cm×4.5cmの正方形
(2)4.0cm×5.0cmの長方形
(3)一辺が5.0cmの三角形
(4)直径が4.5cmの円
(5)一辺が4.5cmで辺の交わる角度が60°と120°の菱形
- ⑦服装減点…0.3

《同点順位の決定方法について》

団体競技

- 1. Eスコアの高いチームを上位とする。
- 2. (上記1)において同点の場合、最も低い技術減点(ET)を有するチームを上位とする。
- 3. (上記2)においても同点の場合、Dスコアの高いチームを上位とする。
- 4. (上記3)においても同点の場合、主催団体に一任する。(当該監督による抽選など)

個人競技

- 1. 2種目のEスコアの合計が高い選手を上位とする。
 - 2. (上記1)においても同点の場合、2種目において技術減点(ET)が低い選手を上位とする。
 - 3. (上記2)においても同点の場合、2種目のDスコアの合計が高い選手を上位とする。
 - 4. (上記3)においても同点の場合、主催団体に一任する。(当該監督による抽選など)
- *全国選抜個人競技については(公財)日本体操協会採点規則にある通りとする。(競技規則5.2.1.2 個人総合決勝)

団体における同点順位決定方法

- 1.個人4種目のEスコアの平均と団体のEスコアの合計が高いチームを上位とする。
- 2.(上記1)においても同点の場合、個人4種目の技術減点(ET)スコアの平均と団体の技術減点(ET)スコアの合計点が高いチームを上位とする。
- 3.(上記2)においても同点の場合、個人4種目のDスコアの平均と団体Dスコアの合計点が高いチームを上位とする。
- 4.(上記3)においても同点の場合、主催団体に一任する。(当該監督による抽選など)

審判編成基準

* 開催県審判は最大2名とする。

審判長/副審判長(審判本部)

個人 競技	種目A	D1	D2	D3	D4	E1	E2	E3	E4	E5	E6
	種目B					E1	E2	E3	E4	E5	E6
団体 競技	団体	D1	D2	D3	D4	E1	E2	E3	E4	E5	E6
線審(2名)						開催県					
計時(2名)						開催県					
補審(1名)						開催県					
CJ(1名)						開催県					

※補審:競技中はCJの補佐を行う。